

TXレンジャー/TX6000（共通）各ボタンの機能・役割



- ① 左カーソル・設定値減少キー
- ② 右カーソル・設定値増加キー
- ③ 波形保存・選択キー
- ④ スキャン・ロック（固定）・下カーソル
- ⑤ リターン（戻る）キー /
※【レンジ調整】⑤押しながら①もしくは②
- ⑥ バックライト ON/OFF
- ⑦ 電源 ON/OFF
- ⑧ 計測画面での各設定値の変更ボタン
※【ゲイン調整】⑧押しながら①もしくは②

TX レンジャー サンプルケーブルでの測長方法

株式会社グッドマン 0120-26-5527

【全長測長1】

- ①初めにワニ口クリップを
サンプルケーブル片側の
赤と黒の芯線に接続します
(無極性なのでクリップの
色と芯線の色はどちらでも
構いません。)



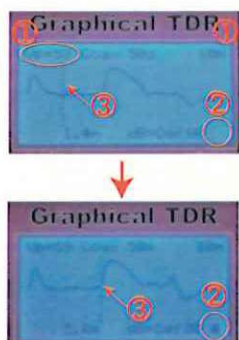
【全長測長2】

- ① 電源ボタンを押して電源を入れます
② 測長ボタンを押して測長を開始します



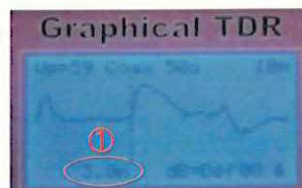
【全長測長3】

- ① VP値を59%に設定します
測定レンジを10mに設定します
(設定方法は説明書P10~12を参照)
② ▼ボタンを長押しして常時測定
モードに変更します。
(右下にマークが表示されます)
③ 波形の変化が始まる部分に
カーソルを合わせます。



【全長測長4】

- ① 画面の左下に3mと表示
されているのがこのサンプル
ケーブルの全長となります



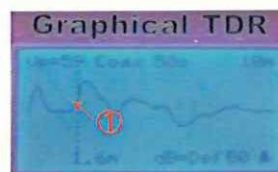
【断線障害測長1】

- ①断線障害の測長を行う
ためにサンプルケーブル
の赤と白の芯線にワニ口
クリップを接続します



【断線障害測長2】

- ① 前述の測長方法と同じ操作
を行い縦軸カーソルを波形
が変化する直前に合わせます
② 数字が1.6mと表示されます
のでサンプルケーブルの障害
箇所を実際にご確認下さい



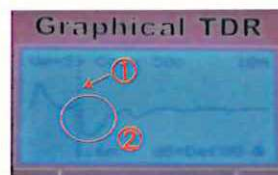
【短絡障害測長1】

- ①短絡障害の測長を行う
ためにサンプルケーブル
の茶色と白の芯線に
ワニ口クリップを接続します



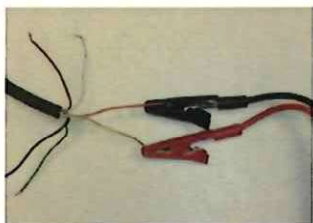
【短絡障害測長2】

- ① 前述の測長方法と同じ操作
を行い縦軸カーソルを波形
が変化する直前に合わせます
② ショート状態や機器が接続
されている場合等の短絡障害
は波形が下方方向に下がります



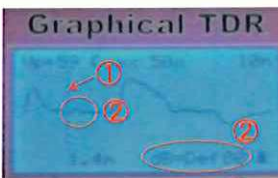
【素線断線障害測長1】

- ①素線断線障害の測長を
行う為にサンプルケーブル
の黄色と赤の芯線にワニ口
クリップを接続します



【素線断線障害測長2】

- ① 前述の測長方法と同じ操作
を行い縦軸カーソルを波形
が変化する直前に合わせます
② 微細な障害点を診断する時
には▲ボタンを押しながら
▶ボタンを押してdB値を変更
するとより変化が読み取り易く
なる場合があります。



TXシリーズ共通：パルス反射式ケーブル測長機 測定手順書

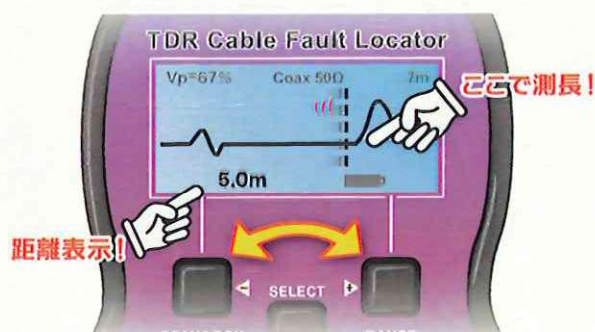
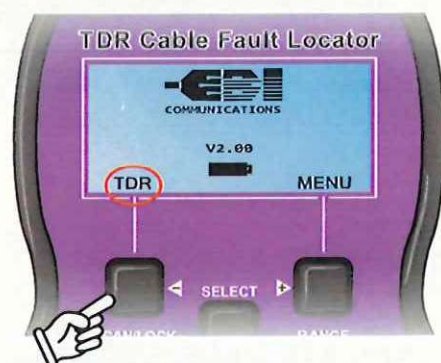
ケーブルの測長とV P 値の設定方法

- 1, ①  を押して電源を入れます。
次に目的線と同種の長さが分かるケーブルを用意して(5~10m) 芯線に赤黒のクリップを接続します。
- 2, TDRを選択して測長開始します。
- 3,   で縦線(点線)の位置を **イベントの始まる箇所** に調節、左下に距離が表示されます。
- 4, 測長した際に実際のケーブルとの誤差がある場合にはMENUから  を選んでV P 値を変更します。
ケーブルの実寸と測長結果を合わせることでV P 値の設定完了です。

※VPは光の速度を100%とした数値
Ωは電力線を25Ω・通信線を50・75Ω
データ線を100Ωとする。
測定範囲(m)はケーブルの全長を超える数値を選ぶ。

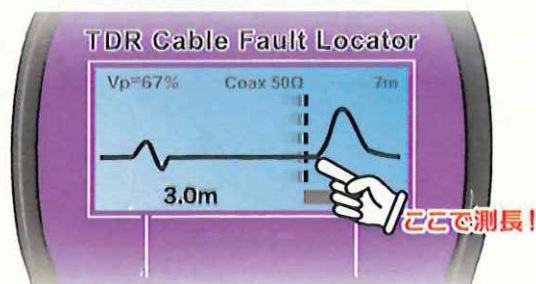


全てのメタルケーブルに対応！
末端は開放・短絡・機器接続でもOK！



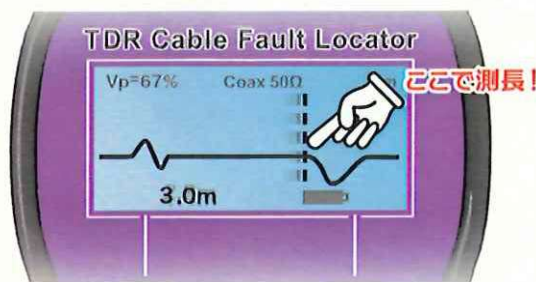
断線ケーブルの測長

ケーブルの片側を断線させクリップを接続してTDRを選択して測長します。画面に**山なり**の波形が表示されこれが断線箇所の波形となります。



短絡ケーブルの測長

ケーブルの片側を短絡させクリップを接続してTDRを選択して測長します。画面に**谷折り**の波形が表示されこれが断線箇所の波形となります。



※波形は断線の場合(高インピーダンス)上方に変化する
短絡(低インピーダンス)の場合は下方に変化する。